

方針 1 人々のねがいと結び、歌いつがれてきたうたを歌い、創り、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、“共に生きる町づくり・地域づくり”のうたごえを広げる。

〔演奏・普及活動〕

“SINGING PEACE 999”運動の展開

憲法を語り、うたい交わす「九条をまもる平和うたう会」運動を起こすことを普及活動の柱に据えて、九条と九九条にちなみ“SINGING PEACE 999”とネーミングし取り組んだ。

小さな規模でも、毎回会場を移し、うたごえ喫茶を開催し、気軽にうたい語り合う場としてつづけている交野うたう会、連続して街角コンサートを展開した広島合唱団、地域に出かけミニコンサートをとりにくむ新日鉄八幡うたう会、会議や練習の前に駅頭で歌う宣伝行動を取り組む（千葉、大阪、東京など）など創意ある活動が全国で展開された。

憲法関連の集会での演奏やみんなでうたうリーダーとしての取り組みは、集約できたものだけでも、約500回、約20万人にのぼり、平和・憲法にちなんだ歌を普及している（28都道府県の集約）。新潟では2500人の県民大集会に200人の合唱隊を組織して演奏、集会参加者に大きな感動を呼んだ。静岡・三島では県内の音楽専門家、市民合唱団と共同して「悪魔の飽食」全国縦断コンサートを成功させた。サークル・合唱団の演奏会、平和コンサート、うたごえ祭典でも、「平和・憲法」をテーマに企画され、多くの専門家、音楽愛好家と共に取り組まれている。そのなかで新しい歌も数多く生まれている。

それぞれ、「 をうたう合唱団」のように、市民にも広く呼びかけ歌い手を組織し、3桁を超える演奏を実現しているところも少なくない。

「ねがい」はどこでもうたわれた

この普及運動の中で、「ねがい」「日本国憲法第九条」「わたしを褒めてください」「あの日の授業」「憲法九条五月晴れ」などが数多くうたわれている。

なかでも「ねがい」は、人々の気持ちにフィットした、うたいやすいソングとして、意識的などりくみもあり、大きな広がりを見せている。

自分たちのことばで5番の歌詞をつくる取り組みも大きくひろがり、現在登録されているものだけで620番を越えた。

原水爆禁止世界大会、日本母親大会、全国保育団体合同研究集会、教育研究全国集会などの全国的な集会でうたわれたのを始め、教育現場や市民合唱祭などでも取り上げられている。また、キム・ウォンジュン日本公演や、ナターシャ・グジーコンサートでも「ともに歌う合唱団」が組織され各地で演奏された。

出版された「世界をつなぐ歌『ねがい』」の本の普及と合わせ、さらに徹底して大きく広げていくために「ねがいプロジェクト」を立ち上げとりくみをすすめている。

「ぞうれっしゃがやってきた」 絵本初版30年、初演20年

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」が創られて20年、愛知で国際交流コンサート

を成功させたほか、各地で演奏会が開かれ、親子で一緒に平和を考える取り組みとなった。180人のチャーター機を仕立てて南京公演も実現、ふくい・北陸祭典での高校生の吹奏楽伴奏での全国合同成功など、「ぞう」の歴史に新たな1ページを加えた。

「音楽・九条の会」と「うたごえ九条の会」のとりくみ

05年9月に池辺晋一郎氏、日下部吉彦氏らが、「平和でこそ美しい音楽が花開きます」と憲法九条を守る一点で音楽家の共同を呼びかけた「音楽・九条の会」は07年1月現在37人の呼びかけ人、3800人を超える賛同者を数えている。06年1月に大阪で発足後初のコンサートを成功させたのに続き、東京では6月、12月のいずれも9日にコンサートを開催、好評を博している。うたごえも事務局としてかわり、九条守る一致点での共同のとりくみの発展の力になっている。

協議会やサークル・合唱団にも九条の会がつくられ、学習、宣伝、署名、演奏活動も各地で行われた。大阪の「うたごえ九条の会」では、独自の宣伝・署名行動や21団体が参加したパレードなども行い、地域の九条の会との共同のとりくみにも積極的にかかわり、ニュースも発行し大きな広がりを見せている。茨城では九条の会と音楽家が共同で開催したピースコンサートにうたごえ協議会も全面的にかかわり成功の大きな力になっている。岐阜・音楽集団ひまわりの湯上芳美さんは県内ほとんどの九条の会に出かけ、演奏、企画にと活躍した。兵庫の「ピース・ミュージック・パワー・ムーブメント」など青年の表現要求を集めた取り組みも盛んになっている。さが・平和の旅へ合唱団では、県内の音楽家・音楽愛好家によびかけ平和コンサートを実現。奈良祭典実行委員会準備会ではCD「TRIBUTE ARTICLE 9～憲法のこころ～」を協議会加盟団体の演奏会の音源を元に作成、さまざまな機会に普及している。

要請されて演奏に行くだけでなく、企画・制作の段階から関わり、アーティストの紹介など取り組みの成功の力になっている例も多い。

改憲の動きが強まっている現在、できるところからすぐに「うたごえ九条の会」を立ち上げると共に、幅広い専門家や音楽愛好家との共同を視野にいたした「音楽・九条の会」を全国で立ち上げることが求められている。

核兵器廃絶・基地強化反対のとりくみとうたごえ

3・1ピキニデーでは文化企画にナターシャ・グジーさんを迎え、静岡のうたごえ中心に「青い地球を」「海に生きたあなたよ」他を演奏、グジーさんと一緒に「ねがい」をうたったフィナーレは参加者も巻き込み元気のものであった。核兵器廃絶を訴え、全国をくまなく行進する国民平和大行進でも、東京での出発式では青年によるピースライブが開催され、行進ではサウンドカーも登場、参加者を励ました。うたごえなども企画しながらうたごえの途絶えない行進にと協議会で位置づけて取り組んでいる愛知、千葉などに学びたい。

原水爆禁止世界大会・広島では、広島原爆症認定集団訴訟の完全勝訴の地裁判決に参加者全員立ち上がったの歓声、うたごえも「いのちをかけて」「折り鶴」そして、ステージ一杯の若者と海外代表がうたごえ「ねがい」でしめくくった。長崎でも長崎のうたごえ中心

に「その手の中に」「今この時代に」などを演奏、海外代表と会場も一緒に「We shall all overcome」が歌い交わされた。文化の分科会では各地の核兵器廃絶・憲法まもれの取り組みの中で音楽・文化の果たしている役割が語られ、参加者の確信になっている。

原水爆禁止世界大会の参加者の約半数を占める10代から30代の若者たちは、ここで学びつながら、全国で平和を守る担い手として育っている。人類共通の目標で、まさに党派を超え、思想信条の違いを乗り越えた取り組みとして進んでいる核兵器廃絶の運動を、うたごえとしても運動の柱のひとつとして取り組むことは重要である。

基地強化を許さない住民運動が各地で取り組まれている。岩国では国鉄広島ナッパーズの山上茂典さんを先頭にうたった「空の歌」「住民投票音頭」などのうたごえが、住民投票勝利の大きな力になり、12月に同地で開かれた日本平和大会の成功につながった。原子力空母母港化反対の横須賀での大集会にも首都圏のうたごえが結集し平和のうたをひびかせた。毎年行われている北海道白別平和盆踊りには合唱団アンラコロや北海道合唱団が歌って参加している。

働く者のたたかいとうたごえ

なりふり構わぬリストラ、労働者いじめが横行する中、闘いに立ち上がる多くの人々がいる。うたごえはここでも大きな力を発揮している。世界一の売り上げを誇るトヨタのお膝元で行われるトヨタ総行動にはトヨタ車体うたごえを先頭に愛知のうたごえが連帯、過労死裁判を闘う内野博子さんを励ます「おやすみ」や、「トヨタかぞえうた」「みんな元気か」などを演奏。NTTリストラ裁判を闘う群馬では「母さんの樹」の演奏会を、電通のうたごえと群馬のうたごえが共同して成功させた。JR採用差別と闘う国鉄のうたごえは、闘争勝利をめざす集会で「うれし涙」「俺たちの歌」「職場に帰る日を信じて」などをうたい、圧倒的な感動を生んだ。リストラの毒味役と公言するIBMを告発する大集会では南部合唱団とIBMの労働者が構成劇を披露、闘いを知らせるだけでなく、怒りと感動を生みだす力となった。大阪の私立初芝学園で学校改悪・教育つぶしを許さない闘いを支援する集会は、「人が人として生きる・李陽雨コンサート」して開かれ、合唱団Peace Call、友よ闘ってこそ明日がある合唱団、いずみ合唱団、合唱団ぐみの木なども加わり、たたかいと文化を結んだあたたかくて元気の出るものとなった。

教育基本法改悪反対のたたかいでは、教育のうたごえの仲間が先頭に立ち、多くの教員にも呼びかけ「子どもを守るうた」「自由の風」「あの日の授業」などを持って、たたかいを励まし共同を広げる大きな役割を果たした。

東京南部では、春闘やメーデーなどの取り組みでつながった労働組合との共同から、定例のうたごえ酒場が開催され、若い労働者も参加をするとりくみになっている。

職場のうたごえでは、高齢化や退職者の増加や働く環境の悪化から職場のサークル・合唱団の活動が困難になっているところも多い。その中で、郵便の職場で若い非正規雇用の労働者も結集、労働組合も全面的にバックアップして郵便祭典から全国祭典まで参加し、その後サークルの継続を決めた広島の「うたごえプロジェクト730」の取り組みは特筆される。おおいに学びながら、青年の雇用と労働条件改善を要求するたたかいなどにもさらにうたごえをとどけたい。

元気な女性のうたごえ

東京の女性のうたごえ連絡会は定期的にニュースも発行し、3・8国際女性デーでの演奏や、音楽・九条の会のコンサートなどにも出演、さまざまな集会での演奏にも積極的な役割を果たしている。大阪の女性のうたごえは、ふくい・北陸祭典の女性合同の事務局団体としてその成功に大きな役割を果たした。兵庫では毎年女性のうたごえ独自の合唱発表交流会を開催している。協議会に加盟はしていない団体も含め幅広い共同のとりくみ、連帯活動が行われている。

盛況なうたう会、うたごえ喫茶・うたごえ酒場

みんなとカ一杯うたいたいという要求は渦巻いている。恒常的に開催されているうたごえ喫茶も増え、参加者も確実に増えている。文化活動を積極的に取り入れ、うたごえ祭典の成功を運動方針に掲げる年金者組合では、各地でうたう機会がもたれ、定例化されたサークルも増えている。母親大会の分科会や昼休み企画などにうたごえは欠かせないものになっている。各地のアコーディオンサークルにも伴奏の依頼が増え、活動の場を広げている。要求に応えるシングアウトリーダー、伴奏者を大量に生みだすことが求められている。新版歌集「うた・うた・うた」とカラオケCDを有効に生かす取り組みや、広島のうたごえ協議会が開催した「うたう会・うたごえ喫茶のためのリーダー＆伴奏者＆サポーター・交流講座」の経験に学びたい。

さまざまな集会やメーデーなどで、マンネリを打ち破り、参加者が心をひとつに元気の出る文化的な要素が求められている。うたごえが演奏集団としてだけでなく、企画・制作・演出・進行などのプロデュース集団として力量を高めることが大切になっている。

〔創作活動〕

多くの人が“こぞってうたえる”愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

昨年の創作運動には大きな前進があった。全国で旺盛な創作活動が実践されたが、憲法や平和、教育などをテーマにしながら、生活感・リアリティのある作品が増え、また作品をよりよく演奏し届けようという意気込みにあふれた各地での取り組みが、日本のうたごえ祭典「オリジナルコンサート」(以下、オリコン)にも数多く反映され、会場を沸かせた。合唱組曲「おばあちゃんから孫たちへ」(東北のうたごえ)、「九条上総弁」(このゆびとまれ、総の国人)、「わたしたちは白い風～大阪府立病院機構労働組合のうた～」(大阪府庁うたごえ合唱団)、「平和の999」(大阪のうたごえ合同)、「空の歌」(山上茂典)、「9条で333」(九州のうたごえ創作合同)、「バナナってどんな味」(合唱団しじゅうから)、「その子2～いじめられてた子～」(道家桂)、「チャイナソング」(親と子のみどりの杜合唱団)など。

その背景には、各サークルや個人だけではない、ブロックや県でのうたごえの組織的な努力がある。新年早々の創作合宿で、ふくい・北陸祭典成功をリードした「あったかいうた」を生み出した福井、東北における各サークルの創作編曲に果たす小林康浩氏の活躍と

それをつなぐブロックの取り組み、全国創作合宿参加者を中心にオリコンへの組織的な参加をした千葉、一昨年からオリコンがサークルの創作を励ましている東京、トヨタ過労死裁判支援や被爆者集団訴訟、学童保育全国集会など、様々な運動と結びながらすすめた愛知、創作センターづくりを意識しながら数年継続してオリコンを開催し参加を広げている大阪、うたごえ55周年を機にわたしの平和ムーブメントを起こし「憲法九条五月晴れ」などの歌を生み出してきた京都、憲法ミュージカルを継続発展させている広島、年2回もの創作合宿を実行する九州、また産別における創作もふくめ、九条を守るたたかいの中で、旺盛な創作活動が各地で展開された。

その運動をつなぎ、励まし、学びあうひとつの起点となったのが、仙台・秋保温泉における全国創作合宿（3月31日～4月2日）であった。地元東北を中心に全国から61人の参加と、多彩で充実した講師によって、学びと交流、そして創作実践のすべての点において大きな成果を上げた。直後に、うたごえ新聞によって伝えられた「ありがとう～大地に咲く花～」原詩作者の渡辺咲地さんのレポートに創作過程とその感動を見ることが出来る。創られた曲がすぐに参加者のホームページ上で紹介され、交流され、広げられたことも今までになかった特徴であった。成功の要因として、地元の宮城のうたごえの協力で、秋保温泉や藁の家など文化的な環境の中ですすめることができたこと、講座の魅力、とりわけ詩人・石黒真知子さんからの示唆に富んだお話は、参加者の創りたい意欲に火をつけ、その後の創作実践が大変活気付いたこと、全国のベテランの創作者がたくさん集まることができ、「オペラ『沖縄』の創造の記録」や、うたごえの創作運動上の未来への展望・課題なども様々な場で語ることができたこと、などがあげられる。

今後も、様々なたたかいとむすびながら各地での意識的な創作運動を広げ、全国創作合宿とオリコンを節目に学びあい、日常的な作品交流をすすめる創作センターを確立していくことが求められている。